

講義科目名称： 教育原理

授業コード：

英文科目名称： Principles of Education

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	1年	2単位(2-0)	必修科目
担当教員			
系 洲 理子			
授業形態：講義 遠隔授業の可能性あり	ナンバリング：EEB3111102		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 教育についての基礎的な理解</p> <p>【到達目標】 知識・理解の観点：教育の理念や意義、目的、制度などの基本的概念について学び、それらが教育の歴史や思想を通して、どのように現れてきたかについて理解することができる。また、教育及び学校教育がどのように捉えられ、変遷してきたかについて、乳幼児期の教育の特性や学校教育との相違、生涯教育について理解することができる。 技能の観点：教育について基礎的な理論を学習し、現代の教育の特徴と課題について自らの考えを述べることができる。 態度の観点：教育について自ら考えることができる。また、他者との討論をとおして、協働して教育を実践するための態度を獲得できる。</p>
授業の概要	<p>教育が社会の中でどのように誕生して営まれてきたのか、教育の歴史や思想の変遷を通して教育の意義や目的、教育法規、教育制度など実践に必要な基礎理論について理解する。また、乳幼児期の教育の特性や学校教育との相違、生涯教育についても理解する。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要及び評価基準の説明、「教育」とは何か？ 授業の始めに講義概要及び評価基準について説明する。 社会の中で営まれている「教育」とは何か、自ら受けてきた学校教育をとおして改めて考える。 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 【事前学習】授業前にテキスト第1章 (pp. 1-7) を読み、分からない用語は確認しておくこと (2時間) 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること (2時間)</p> <p>第2回 教育と児童福祉 教育と児童福祉の関連について理解する。 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 【事前学習】授業前にテキスト第1章 (pp. 7-9) を読み、分からない用語は確認しておくこと (2時間) 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること (2時間)</p> <p>第3回 子どもの教育の今日的課題 社会の中で営まれている「教育」と何か、その意義と目的について学ぶ。また、子どもの発達の特性をふまえた教育の在り方、特に児童福祉と教育の関係について理解する。 【事前学習】授業前にテキスト第2章 (pp. 10-20) を読み、分からない用語は確認しておくこと (2時間) 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること (2時間)</p> <p>第4回 家庭教育 家庭で行われる教育とは何か、子どもの発達に必要な環境とその要因、発達の基本的概念、愛着の形成について理解する。 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 【事前学習】授業前にテキスト第3章 (pp. 21-32) を読み、分からない用語は確認しておくこと (2時間) 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること (2時間)</p> <p>第5回 学校教育①：学校教育の機能 教育の中心となる「学校教育」とは何か、その機能について理解する。 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 【事前学習】授業前にテキスト第4章 (pp. 33-36) を読み、分からない用語は確認しておくこと (2時間) 【事後学習】授業で学習した箇所の要点、情報リテラシーについて整理すること (2時間)</p> <p>第6回 学校教育②：学校教育の法制度 教育の中心となる「学校教育」とは何か、その機能について理解する。 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 【事前学習】授業前にテキスト第4章 (pp. 37-49) を読み、分からない用語は確認しておくこと (2時間) 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること (2時間)</p> <p>第7回 カリキュラム 教育実践の基礎理論となるカリキュラムについて理解する。 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 【事前学習】授業前にテキスト第6章 (pp. 63-75) を読み、分からない用語は確認しておくこと (2時間) 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること (2時間)</p> <p>第8回 子どもの教育の歴史と現在①：教育の歴史と教育思想 教育の歴史と教育思想、子ども観、教育観についての変遷と現状について理解する。 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 【事前学習】授業前にテキスト第7章 (pp. 76-91) を読み、分からない用語は確認しておくこと</p>

	<p>(2時間) 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること (2時間)</p> <p>第9回 子どもの教育の歴史と現在②：子ども観と教育観 教育の歴史と教育思想、子ども観、教育観についての変遷と現状について理解する。 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 【事前学習】授業前にテキスト第7章 (pp. 76-91) を読み、わからない用語は確認しておくこと (2時間) 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること (2時間)</p> <p>第10回 諸外国の教育の歴史と教育思想 諸外国で教育がどのように発生し、営まれてきたかについて、教育の歴史と代表的な思想を理解する。 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 【事前学習】授業前にテキスト第8章 (pp. 92-108) を読み、わからない用語は確認しておくこと (2時間) 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること (2時間)</p> <p>第11回 日本の教育の歴史と教育思想 日本で教育がどのように発生し、営まれてきたかについて、教育の歴史と代表的な思想を理解する。 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 【事前学習】授業前にテキスト第9章 (pp. 109-125) を読み、わからない用語は確認しておくこと (2時間) 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること (2時間)</p> <p>第12回 教育と評価 教育評価と教育経営について理解する。 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 【事前学習】授業前にテキスト第11章 (pp. 141-151) を読み、わからない用語は確認しておくこと (2時間) 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること (2時間)</p> <p>第13回 幼児教育 就学前の幼児教育・保育の目的・方法と小学校以降の教育の違いを理解する。 【事前学習】授業前に「幼稚園教育要領」第1章及び「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」第1章、「保育所保育指針」第1章を読むこと (2時間) 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること (2時間)</p> <p>第14回 子どもと教育専門職 子どもを教育する教育専門職について理解する。 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 【事前学習】授業前にテキスト第12章 (pp. 152-162) を読み、わからない用語は確認しておくこと (2時間) 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること (2時間)</p> <p>第15回 教育の現状と課題 現代社会の教育及び保育の現状と課題について、理解する。教育・保育の課題について討議する。 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 【事前学習】授業前に配付する資料を読み、インターネット等で情報を収集する。わからない用語は確認しておくこと (2時間) 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること (2時間)</p> <p>第16回 定期試験 ※遠隔で試験を実施する場合は、詳細について別途通知する。</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input checked="" type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p> <p>5) 実践的PBL <input type="checkbox"/></p>
テキスト	<p>北野幸子編著 『シードブック 改訂 子どもの教育原理』 建帛社 2018年 文部科学省 『幼稚園教育要領』 フレーベル館 2017年 文部科学省 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 2018年 厚生労働省 『保育所保育指針』 フレーベル館 2017年 厚生労働省 『保育所保育指針解説』 フレーベル館 2018年 内閣府・文部科学省・厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館 2017年 内閣府・文部科学省・厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館 2018年</p>
参考書	<p>ミネルヴァ書房編集部 [編] 2021年 『最新保育資料集2021』 ミネルヴァ書房 その他、必要な資料は適宜配布する。</p>
評価方法	<p>試験50%、レポート20%、課題20%、討議10%で総合的に評価する。 なお、受講態度が著しく不良の場合は減点する。</p>
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) —：出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【○】 1. キリスト教精神に基づき、他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための態度を身につける。 【 】 2. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律し他者との対話を通して、主体的に保育を实践する態度を迫及する。 【 】 3. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。 【 】 4. 地域を拠点に、国内外の子どもや保育の課題を解決するために貢献できる。</p>

	【○】5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。
履修上の注意	講義形式の授業だが、双方向型の講義を重視し、できるだけ発言の機会を設ける。 新聞やニュースを閲覧して、子どもや教育を取り巻く時事問題に関心を持つこと。 ※課題の提出期限を厳守すること。
オフィスアワー	毎週*曜日*限目 糸洲研究室（西研3-8）
課題に対する フィードバック方法	課題及びレポートは、評価後に返却する。

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	1年	2単位(2-0)	選択科目 (幼免・保育士：必修)
担当教員			
平中 尚子・糸洲 理子			
授業形態：講義 遠隔授業の可能性あり。	ナンバリング：EEB3211131		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 教職・保育職の意義と役割の理解</p> <p>【到達目標】 知識・理解の観点：現代社会における教職の意義や教員の役割・資質能力、職務内容等について理解することができる。特に乳幼児期の教育・保育に関わる幼稚園教諭や保育士になるために、幼稚園教諭・保育士の役割と倫理、制度的位置づけ、職務内容について学び、幼稚園教諭・保育士の専門性について考察し、理解することができる。 技能の観点：教職・保育職の意義について理解し、役割、資質・能力等について自らの考えを述べることができる。 態度の観点：教職・保育職につく者として、自己について客観的に振り返ることができる。また、他者との討論をとおして、協働して保育を実践するための態度を獲得できる。</p>
授業の概要	幼稚園教諭・保育士の役割や倫理、制度的位置づけ、職務内容（研修、服務、身分保障等）について理解し、自らの幼稚園教諭・保育士像を明確にする。また、幼稚園教諭・保育士の資質能力や専門性について理解し、幼稚園教諭・保育士の協働、関係機関との連携の在り方、現代の保育問題についても理解を深める。なお、クラス担当者それぞれの保育所保育士、幼稚園教諭としての実務経験を活かし、保育者の意義や役割、資質能力、職務内容等について、具体的な事例をふまえて講義する。
授業計画	<p>第1回 講義概要及び評価基準の説明。「幼稚園教諭・保育士になる」ということ ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用 授業始めに講義概要及び評価基準について説明する。 幼稚園教諭や保育士になるとは、どういうことか、自らの保育歴をふまえて考える。 【事前学習】初回講義前に、保育者になりたい理由を考えておくこと（2時間） 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること（2時間）</p> <p>第2回 保育所保育士の仕事と役割 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用 保育所の一日のDVDを視聴し、保育所保育士の仕事と役割について理解する。 【事前学習】授業前にテキスト序章（pp.13-22）、第1章（pp.23-25,29-33）を読み、わからない用語は確認しておくこと（2時間） 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること（2時間）</p> <p>第3回 幼稚園教諭の仕事と役割 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用 幼稚園の一日のDVDを視聴し、幼稚園教諭の仕事と役割について理解する。保育所と幼稚園の違いについて、グループ協議を行う。 【事前学習】授業前にテキスト第1章（pp.25-29）を読み、わからない用語は確認しておくこと（2時間） 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること（2時間）</p> <p>第4回 保育教諭の仕事と役割 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用 保育教諭の仕事と役割について理解する。 【事前学習】授業前にテキスト第1章（pp.33-41）を読み、わからない用語は確認しておくこと（2時間） 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること（2時間）</p> <p>第5回 教育・保育に必要な子ども理解 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用 教育・保育を行う上で、子どもをどのように理解するかについて学ぶ。 【事前学習】授業前にテキスト第3章（pp.50-70）を読み、わからない用語は確認しておくこと（2時間） 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること（2時間）</p> <p>第6回 幼稚園教諭・保育士に求められる資質・能力 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用 幼稚園教諭や保育士に求められる資質と能力について理解する。 【事前学習】授業前にテキスト第4章（pp.71-86）を読み、わからない用語は確認しておくこと（2時間） 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること（2時間）</p> <p>第7回 職場で学び合う専門家 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用 教育・保育を行う者として、職場で上司や同僚とどのように学び合い、自己を高めるかについて理解する。 【事前学習】授業前にテキスト第5章（pp.87-104）を読み、わからない用語は確認しておくこと（2時間） 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること（2時間）</p> <p>第8回 特別支援教育・保育 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用 特別な支援を要する子どもの教育及び保育について理解する。事例について、グループ協議を行う。 【事前学習】授業前にテキスト第7章（pp.119-123）を読み、わからない用語は確認しておくこと（2時間） 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること（2時間）</p> <p>第9回 子育て支援と幼稚園教諭・保育士の役割 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用</p>

	<p>子育てする保護者を支援するために必要な、幼稚園教諭や保育士の役割について理解する。事例について、グループ協議を行う。</p> <p>【事前学習】授業前にテキスト第7章 (pp. 116-136) を読み、わからない用語は確認しておくこと (2時間)</p> <p>【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること (2時間)</p> <p>第10回 現代社会の保育問題と幼稚園教諭・保育士の役割 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用</p> <p>現代社会を取り巻く様々な保育問題について、幼稚園教諭や保育士が果たす役割について理解する。</p> <p>【事前学習】授業前にテキスト第8章 (pp. 137-150) を読み、わからない用語は確認しておくこと (2時間)</p> <p>【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること (2時間)</p> <p>第11回 幼稚園教諭・保育士の職務：サービス、研修、身分保障 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用</p> <p>幼稚園教諭や保育士のサービスや研修、身分保障について学び、その職務を理解する。</p> <p>【事前学習】授業前にテキスト第6章 (pp. 105-115) を読み、わからない用語は確認しておくこと (2時間)</p> <p>【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること (2時間)</p> <p>第12回 幼稚園教諭・保育士に求められる倫理 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用</p> <p>教育・保育を行う際に、幼稚園教諭や保育士に求められる倫理について理解する。事例について、グループ協議を行う。</p> <p>【事前学習】授業前にテキスト第2章 (pp. 42-49) を読み、わからない用語は確認しておくこと (2時間)</p> <p>【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること (2時間)</p> <p>第13回 日本の保育者のあゆみ ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用</p> <p>幼稚園教諭や保育士の権利について理解する。</p> <p>【事前学習】授業前にテキスト第9章 (pp. 151-166) を読み、わからない用語は確認しておくこと (2時間)</p> <p>【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること (2時間)</p> <p>第14回 専門職間及び関係機関との連携 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用</p> <p>園の内外の専門職や関係機関との連携について理解する。</p> <p>【事前学習】授業前に配付する資料を読み、わからない用語は確認しておくこと (2時間)</p> <p>【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること (2時間)</p> <p>第15回 幼稚園教諭・保育士の専門性とライフコース ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用</p> <p>幼稚園教諭や保育士の専門性について理解する。また、保育者のライフコースについて理解する。</p> <p>【事前学習】授業前にテキスト第10章 (pp. 167-188) を読み、わからない用語は確認しておくこと (2時間)</p> <p>【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること (2時間)</p> <p>第16回 定期試験</p> <p>※遠隔で試験を実施する場合は、詳細について別途通知する。</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p> <p>5) 実践的PBL <input type="checkbox"/></p>
テキスト	<p>編集代表 秋田喜代美 編集 西山薫他 『新時代の保育双書 今に生きる保育者論 第4版』 みらい 2019年</p> <p>文部科学省 『幼稚園教育要領』 フレーベル館 2017年</p> <p>文部科学省 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 2018年</p> <p>厚生労働省 『保育所保育指針』 フレーベル館 2017年</p> <p>厚生労働省 『保育所保育指針解説』 フレーベル館 2018年</p> <p>内閣府・文部科学省・厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館 2017年</p> <p>内閣府・文部科学省・厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館 2018年</p>
参考書	<p>ミネルヴァ書房編集部 [編] 『最新保育資料集2021』 ミネルヴァ書房 2021年</p> <p>その他、必要な資料は適宜配布する。</p>
評価方法	<p>試験60%、レポート20%、課題10%、討議10%で総合的に評価する。</p> <p>なお、受講態度が著しく不良の場合は減点する。</p>
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。</p> <p>成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない</p> <p>欠 (K) - : 出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【 】 1. キリスト教精神に基づき、他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための態度を身につける。</p> <p>【○】 2. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律し他者との対話を通して、主体的に保育を实践する態度を追求する。</p> <p>【 】 3. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。</p> <p>【 】 4. 地域を拠点に、国内外の子どもや保育の課題を解決するために貢献できる。</p> <p>【○】 5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
履修上の注意	<p>講義形式の授業だが、できるだけ発言の機会を設ける。</p> <p>課題の提出は期限を厳守すること。</p>
オフィスアワー	<p>平中：後期開講</p> <p>糸洲：毎週水曜日4限目 糸洲研究室（西研3-8） ※E-mail：a.itosu@oc.ic.ac.jp</p>

	※遠隔授業期間中は、メール、オンライン (Microsoft Teams) 、必要に応じて電話で面談する。 ※面談に関する連絡は、大学メールで行う。
課題に対する フィードバック方 法	課題及びレポートは、評価後に返却する。

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前・後期	2年次	2単位 (2-0)	選択科目 (幼免：必修)
担当教員			
長谷川 裕			
授業形態：講義 (遠隔授業の可能性あり)	ナンバリング：EEM3232181		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	学校における教育実践と、その背景にある学校制度や社会全体のあり方との関係について、社会学的視点から把握できるようになることが、授業のテーマであり到達目標です。		
授業の概要	学校教師が執筆した「教育実践記録」をいくつか取り上げ、その背景にある学校制度や社会全体のあり方をも把握しつつ、それらと関連させながら、記録に描かれている実践の意味を読み解いていきます。おおよそ次の「授業計画」欄に記された内容に触れていきますが、授業の状況を見ながら、より適切な内容・流れに変更します。 対面授業・遠隔授業いずれの場合も、各回の講義資料をTeamsにて配信します。レポートは、Teamsにて提出してもらいます。		
授業計画	第1回	授業概要説明：教育社会学とは何かについての説明 【事前学習】 Teamsに事前に掲載されたレジュメ・資料に目を通しておく(2時間) 【事後学習】 授業で使用したレジュメ・資料を見ながら授業の内容を振り返る(2時間)	
	第2回	教育実践記録①の読み取り・社会学的分析(1)：「承認」の行為・関係と「存在論的安心」「自己肯定感」の観点から(ア) 【事前学習】 Teamsに事前に掲載されたレジュメ・資料に目を通しておく(2時間) 【事後学習】 授業で使用したレジュメ・資料を見ながら授業の内容を振り返る(2時間)	
	第3回	教育実践記録①の読み取り・社会学的分析(2)：「承認」の行為・関係と「存在論的安心」「自己肯定感」の観点から(イ) 【事前学習】 Teamsに事前に掲載されたレジュメ・資料に目を通しておく(2時間) 【事後学習】 授業で使用したレジュメ・資料を見ながら授業の内容を振り返る(2時間)	
	第4回	教育実践記録①の読み取り・社会学的分析(3)：「承認」の行為・関係と「存在論的安心」「自己肯定感」の観点から(ウ) 【事前学習】 Teamsに事前に掲載されたレジュメ・資料に目を通しておく(2時間) 【事後学習】 授業で使用したレジュメ・資料を見ながら授業の内容を振り返る(2時間)	
	第5回	教育実践記録②の読み取り・社会学的分析(1)：「個人化」進展の中の子ども・若者の逸脱の変容(ア) 【事前学習】 Teamsに事前に掲載されたレジュメ・資料に目を通しておく(2時間) 【事後学習】 授業で使用したレジュメ・資料を見ながら授業の内容を振り返る(2時間)	
	第6回	教育実践記録②の読み取り・社会学的分析(2)：「個人化」進展の中の子ども・若者の逸脱の変容(イ) 【事前学習】 Teamsに事前に掲載されたレジュメ・資料に目を通しておく(2時間) 【事後学習】 授業で使用したレジュメ・資料を見ながら授業の内容を振り返る(2時間)	
	第7回	教育実践記録②の読み取り・社会学的分析(3)：「個人化」進展の中の子ども・若者の逸脱の変容(ウ) 【事前学習】 Teamsに事前に掲載されたレジュメ・資料に目を通しておく(2時間) 【事後学習】 授業で使用したレジュメ・資料を見ながら授業の内容を振り返る(2時間)	
	第8回	中間のまとめと補足 【事前学習】 Teamsに事前に掲載されたレジュメ・資料に目を通しておく(2時間) 【事後学習】 授業で使用したレジュメ・資料を見ながら授業の内容を振り返る(2時間)	
	第9回	教育実践記録③の読み取り・社会学的分析(1)：近代学校という制度の特質と、そこにおける教え-教えられる関係成立の原理的困難性(ア) 【事前学習】 Teamsに事前に掲載されたレジュメ・資料に目を通しておく(2時間) 【事後学習】 授業で使用したレジュメ・資料を見ながら授業の内容を振り返る(2時間)	
	第10回	教育実践記録③の読み取り・社会学的分析(2)：近代学校という制度の特質と、そこにおける教え-教えられる関係成立の原理的困難性(イ) 【事前学習】 Teamsに事前に掲載されたレジュメ・資料に目を通しておく(2時間) 【事後学習】 授業で使用したレジュメ・資料を見ながら授業の内容を振り返る(2時間)	
	第11回	教育実践記録③の読み取り・社会学的分析(3)：近代学校という制度の特質と、そこにおける教え-教えられる関係成立の原理的困難性(ウ) 【事前学習】 Teamsに事前に掲載されたレジュメ・資料に目を通しておく(2時間) 【事後学習】 授業で使用したレジュメ・資料を見ながら授業の内容を振り返る(2時間)	
	第12回	教育実践記録④の読み取り・社会学的分析(1)：「個人化」進展と、家族の子育ての変容と困難(ア) 【事前学習】 Teamsに事前に掲載されたレジュメ・資料に目を通しておく(2時間) 【事後学習】 授業で使用したレジュメ・資料を見ながら授業の内容を振り返る(2時間)	
	第13回	教育実践記録④の読み取り・社会学的分析(2)：「個人化」進展と、家族の子育ての変容と困難(イ) 【事前学習】 Teamsに事前に掲載されたレジュメ・資料に目を通しておく(2時間) 【事後学習】 授業で使用したレジュメ・資料を見ながら授業の内容を振り返る(2時間)	
	第14回	教育実践記録④の読み取り・社会学的分析(3)：「個人化」進展と、家族の子育ての変容と困難(ウ)	

	<p>【事前学習】 Teamsに事前に掲載されたレジュメ・資料に目を通しておく(2時間)</p> <p>【事後学習】 授業で使用したレジュメ・資料を見ながら授業の内容を振り返る(2時間)</p> <p>第15回 全体のまとめ</p> <p>【事前学習】 Teamsに事前に掲載されたレジュメ・資料に目を通しておく(2時間)</p> <p>【事後学習】 授業で使用したレジュメ・資料を見ながら授業の内容を振り返る(2時間)</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 【 】</p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 【 】</p> <p>3) ICTの活用 【 】</p> <p>4) 初年次教育 【 】</p>
テキスト	特にありません。
参考書	久富善之・長谷川裕編 2019年 『教育社会学 第二版』 学文社
評価方法	各回の授業のコメント・レポート(30%)、教育実践記録読解の小レポート(20%)、学期末レポート(50%)
評価基準	<p>初回講義時に説明します。</p> <p>成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない</p> <p>欠 (K) —：試験欠席・レポート未提出・出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【 】 1. キリスト教精神に基づき、他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための態度を身につける。</p> <p>【 】 2. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律し他者との対話を通して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</p> <p>【○】 3. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。</p> <p>【 】 4. 地域を拠点に、国内外の子どもや保育の課題を解決するために貢献できる。</p> <p>【○】 5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
履修上の注意	特にありません。
オフィスアワー	質問などありましたら、電子メールで連絡ください。アドレス：ytk16761@hs.u-ryukyu.ac.jp
課題に対するフィードバック方法	各回の授業のコメント・レポート、教育実践記録読解の小レポートに記載された内容を、名前は出さずに掲載した資料を作成し、授業の中で紹介しコメントします。

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	1年	2単位(2-0)	必修科目
担当教員			
大城 りえ			
授業形態：講義 遠隔授業の可能性あり	ナンバリング：EEU3121101		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】子どもの心身の発達及び学びの過程の理解</p> <p>【到達目標】</p> <p>知識・理解の観点：子どもの心身の発達の過程と特徴を理解することができる。また、子どもの学びの過程と特性について理解することができる。</p> <p>技能の観点：子どもの心身の発達及び学びの過程を踏まえ、保育者としての子どもへの関わり方を説明できる。</p> <p>態度の観点：子どもの発達や学びに関心を持ち、グループ討議に積極的に取り組む。</p>
授業の概要	<p>①子どもの発達に関する心理学的知識を踏まえ、乳幼児期の子どもの心身(対人関係、自己、情動、身体的機能、運動、認知、言語)の発達の過程及び特徴を学び、保育者としての関わり方を理解する。</p> <p>②学習に関する基礎的知識を踏まえ、子どもの学びの過程と特性を学び、保育者としての関わり方を理解する。</p> <p>③支援を要する子ども達の発達について理解する。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、発達心理学を学ぶ意義について ※遠隔授業の場合、MicrosoftTeamsを使用する。 発達心理学を学ぶ意義を理解する。 【事前学習】テキストpp. 2、10-21を読み、わからない用語を調べる。(2時間) 【事後学習】発達心理学を理解することの意義についてまとめる。(2時間)</p> <p>第2回 発達段階・発達課題について ※遠隔授業の場合、MicrosoftTeamsを使用する。 発達段階と発達課題について理解する。 【事前学習】配布資料を読み、わからない用語を調べる。(2時間) 【事後学習】発達段階と発達課題の意味をまとめる。(2時間)</p> <p>第3回 発達理論・発達を規定する要因について(グループワーク) ※遠隔授業の場合、MicrosoftTeamsを使用する。 心身の発達に影響する外的・内的要因(遺伝と環境)の相互作用と発達に関する諸理論を学ぶ。 【事前学習】配布資料を読み、わからない用語を調べる。(2時間) 【事後学習】発達理論と発達を規定する要因についてまとめる。(2時間)</p> <p>第4回 胎児期の発達について ※遠隔授業の場合、MicrosoftTeamsを使用する。 胎児の発達を理解する。 【事前学習】配布資料を読み、わからない用語を調べる。(2時間) 【事後学習】胎児の発達についてまとめる。(2時間)</p> <p>第5回 新生児期の発達について ※遠隔授業の場合、MicrosoftTeamsを使用する。 新生児の発達を理解する。 【事前学習】配布資料を読み、わからない用語を調べる。(2時間) 【事後学習】新生児の特徴についてまとめる。(2時間)</p> <p>第6回 乳幼児期の対人関係の発達について ※遠隔授業の場合、MicrosoftTeamsを使用する。 乳幼児期の対人関係の発達について理解し、保育者としての関わり方を学ぶ。 【事前学習】テキストpp. 32-34を読み、わからない用語を調べる。(2時間) 【事後学習】対人関係の発達(愛着)についてまとめる。(2時間)</p> <p>第7回 乳幼児期の自己と情動の発達について ※遠隔授業の場合、MicrosoftTeamsを使用する。 乳幼児期の自己と情動の発達を理解し、保育者としての関わり方を学ぶ。 【事前学習】テキストpp. 34-39を読み、わからない用語を調べる。(2時間) 【事後学習】自己の発達と情動の発達についてまとめる。(2時間)</p> <p>第8回 乳幼児期の身体的機能と運動機能の発達について ※遠隔授業の場合、MicrosoftTeamsを使用する。 乳幼児期の身体的機能と運動機能の発達を理解し、保育者としての関わり方を学ぶ。 【事前学習】テキストpp. 39-40を読み、わからない用語を調べる。(2時間) 【事後学習】身体的機能と運動機能の発達についてまとめる。(2時間)</p> <p>第9回 乳幼児期の認知の発達について①第一次認知 ※遠隔授業の場合、MicrosoftTeamsを使用する。 乳幼児期の第一次認知について理解し、保育者としての関わり方を学ぶ。 【事前学習】テキストpp. 40-43を読み、わからない用語を調べる。(2時間) 【事後学習】第一次認知についてまとめる。(2時間)</p> <p>第10回 乳幼児期の認知の発達について②第二次認知 ※遠隔授業の場合、MicrosoftTeamsを使用する。 乳幼児期の第二次認知について理解し、保育者としての関わり方を学ぶ。 【事前学習】テキストpp. 43-46を読み、わからない用語を調べる。(2時間) 【事後学習】第二次認知についてまとめる。(2時間)</p> <p>第11回 乳幼児期のことばの発達について ※遠隔授業の場合、MicrosoftTeamsを使用する。 乳幼児期のことば性の発達を理解し、保育者としての関わり方を学ぶ。 【事前学習】テキストpp. 46-51を読み、わからない用語を調べる。(2時間) 【事後学習】ことばの発達についてまとめる。(2時間)</p> <p>第12回 乳幼児期の学びに関わる理論について ※遠隔授業の場合、MicrosoftTeamsを使用する。 学びに関する理論を学ぶ。</p>

	<p>【事前学習】テキストpp. 54-59を読み、わからない用語を調べる。(2時間) 【事後学習】学びの理論についてまとめる。(2時間)</p> <p>第13回 乳幼児期の学びの過程と特性について(グループワーク) ※遠隔授業の場合、MicrosoftTeamsを使用する。 乳幼児期の学びの過程と特性について理解する。</p> <p>【事前学習】テキストpp. 60-69を読み、わからない用語を調べる。(2時間) 【事後学習】学びの過程と特性についてまとめる。(2時間)</p> <p>第14回 乳幼児期の学びを支える保育について(グループワーク) ※遠隔授業の場合、MicrosoftTeamsを使用する。 乳幼児期の学びを支える保育について理解する。</p> <p>【事前学習】テキストpp. 69-73を読み、わからない用語を調べる。(2時間) 【事後学習】学びを支える保育者の関わり方についてまとめる。(2時間)</p> <p>第15回 支援を要する子どもたちの発達理解について ※遠隔授業の場合、MicrosoftTeamsを使用する。 支援を要する子どもたちの発達を理解する。</p> <p>【事前学習】配布資料を読み、わからない用語を調べる。(2時間) 【事後学習】支援を要する子どもの発達についてまとめる。(2時間)</p> <p>第16回 定期試験 ※遠隔授業の場合、MicrosoftTeamsを使用する。</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p> <p>5) 実践的PBL <input type="checkbox"/></p>
テキスト	<p>『最新 保育士養成講座』総括編集委員会(編) 2020年 『最新保育士養成講座 第6巻 子どもの発達理解と援助』 全国社会福祉協議会 文部科学省 2017年 『幼稚園教育要領』 フレーベル館 文部科学省 2018年 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2017年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2018年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館 その他担当者が準備します。</p>
参考書	<p>厚生労働省 2017年 『保育所保育指針』 フレーベル館 厚生労働省 2018年 『保育所保育指針解説』 フレーベル館</p>
評価方法	定期試験50%、授業内レポート35%、受講態度15%
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 ※遠隔授業の場合、評価方法を変更するため、ルーブリックについても変更あり。詳細は講義内で説明。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀(A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優(B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良(C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可(D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可(F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠(K) —：出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【 】1. キリスト教精神に基づき、他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための態度を身につける。 【 】2. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律し他者との対話を通して、主体的に保育を実践する態度を追求する。 【○】3. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。 【○】4. 地域を拠点に、国内外の子どもや保育の課題を解決するために貢献できる。 【○】5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士(保育)の学位を授与する。</p>
履修上の注意	<p>事前学習と事後学習をしっかり行い、保育の基礎である子どもの発達の理解に努めるため、授業中でも積極的に質問を行うこと。 ※遠隔授業の場合、MicrosoftTeams等に提示する資料や課題を必ず確認すること。同時双方向型授業を実施する回は、授業開始時にはスマートフォンやPCで参加できるよう準備すること。</p>
オフィスアワー	<p>毎週木曜日4限目 西研3-7大城研究室 ※遠隔授業実施期間は、Microsoft Teams・メール等で対応します。(rie@ocjc.ac.jp)</p>
課題に対するフィードバック方法	<p>授業内レポートは、授業内で返却します。定期試験は、各自のメールボックスに返却します。 ※遠隔授業の場合、Microsoft Teamsを使用します。</p>

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	1・2年次	2単位 (2-0)	選択科目
担当教員			
緒方 茂樹			
授業形態：講義 遠隔授業の可能性あり	ナンバリング：EEM3232171		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>テーマ：特別支援教育の内容を理解し、障がい児保育・特別支援教育の基礎を習得する。</p> <p>知識・理解の観点：特別支援教育の理念及び発達障がいの特性とその対応についての知識を身につける。</p> <p>技能の観点：インクルーシブ教育の基本的な概念を正確に説明できる。</p> <p>態度の観点：障がいを含む特別なニーズについて理解しようとする基本的な態度を身につけ、議論に参加できる。</p>
授業の概要	<p>1) 特別支援教育の基本的な理念を理解し、インクルーシブ教育に当たっての留意点について学ぶ。</p> <p>2) 特別なニーズを有する子どもへの支援に関わる、教育課程、個別の教育支援計画・指導計画の内容を学ぶ。</p> <p>3) 多様な学びの場について理解し、就学支援の仕組みと実際について学ぶ。</p> <p>4) 発達障がいをはじめとする様々なニーズを有する子どもへの客観的な見方や評価の方法を身につける。</p> <p>5) 貧困、外国に繋がる子ども等、障がいに由来しない特別なニーズを有する子どもへの客観的な見方や評価の方法を身につける。</p> <p>6) 関係諸機関等の種類と役割を理解し、保護者も含めて障がい児保育に必要な連携の在り方について理解する。</p>
授業計画	<p>第1回 特別なニーズを有する子どもを理解するために ここでは特別なニーズを有する子どもを理解するための基礎的なアプローチについて学びます。まず、特別なニーズを有する子どもとはどのような子どもたちなのかについて、種別と程度も含めて理解します。 次に世界的な障がいに対する考え方の推移について学びます。障がいに関する考え方の変化の具体的な例として、ICIDHからICFへと移行する概念の変化について理解します。特に現在の主流となっているICFの考え方については具体的な例をあげながら詳細に学びます。 [事前学習]：ICFの基本的な考え方について調べておく (120分) [事後学習]：ICIDHとICFの観点の相違について整理 (120分) 遠隔授業の場合：TEAMSを利用、講義資料等は事前に配布あるいはTEAMSで配信</p> <p>第2回 制度・法律の面から見た基礎理解 ここでは障がい児(者)に関わる法制度の歴史の変遷をまず理解します。また特殊教育から特別支援教育への移行のきっかけと新たな課題も含めて学びます。特にノーマライゼーションの考え方に基づく新たな法制度については、その内容について詳細に学びます。 [事前学習]：「差別の解消法」について具体的な事例について調べておく (120分) [事後学習]：特殊教育と特別支援教育との相違について、特に対象児の変化から整理 (120分) 遠隔授業の場合：TEAMSを利用、講義資料等は事前に配布あるいはTEAMSで配信</p> <p>第3回 こころとからだの面からみた基礎理解 ここでは障がい児を理解するために必要な基礎的知識として、心理学・生理学的な観点から人間の行動を理解します。 まず人間の行動を決定づける最も基本的な考え方として、「マズローの欲求階層説」を学びます。また、ストレス状態に対する人間の行動パターンについて「適応機制」の分類と内容を知ります。これらの理論を基に、実際の保育場面を想定しながら人間の行動とその背景にある心理学的な背景を知ることの重要性について考えを深めていきます。 また生理学的観点から、「新しい脳(大脳皮質)」が、「古い脳(本能・情動を司る)」を制御しており、このことで人間らしい適応行動が可能となっていることを知ります。これらの事実に基づいて、障がい児によく見られる不適応行動のメカニズムについて理解します。また、視覚、聴覚、言語などの中枢が全て脳にあることを知り、障がいの原因が怪我や病気などによる末梢のみによるものではないことを理解します。 [事前学習]：人間の本能にはどのような種類があるのかを調べておく (120分) [事後学習]：脳の機能局在について整理 (120分) 遠隔授業の場合：TEAMSを利用、講義資料等は事前に配布あるいはTEAMSで配信</p> <p>第4回 ノーマライゼーションの考え方(アクティブラーニング) 就学後の特別支援教育ではインクルーシブ教育の推進が望まれています。このインクルーシブ教育の根底には「ノーマライゼーション」の考え方があります。ここでは「ノーマライゼーション」について歴史的な経緯を含めて学ぶことで、健常者(保育者)が障がい児(者)とどのように関わっていくべきかという、最も基本的なアプローチの方法を学びます。まずグループディスカッションによるアクティブラーニングから、ノーマライゼーションの基本理念を理解します。 次にバリアフリーやユニバーサルデザインの手法を理解し、障がいのある子どもない子どもも差別なく生きていける、いわゆる共生社会のために必要な環境要因の設定について実際の保育場面に置き換えながら考えていきます。 [事前学習]：インクルーシブ教育についてその概要を調べておく (120分) [事後学習]：ノーマライゼーションの基本的な考え方について「発想の転換」という観点から整理 (120分) 遠隔授業の場合：TEAMSを利用、講義資料等は事前に配布あるいはTEAMSで配信</p> <p>第5回 インクルーシブ教育と合理的配慮・基礎的環境整備 先に学んだノーマライゼーションの理念にに基づくインクルーシブ教育の基本的な考え方について理解します。</p>

	<p>さらにインクルーシブ教育を具体化するために不可欠な「基礎的環境整備」と「合理的配慮」について、具体例を交えながら詳細に学びます。 [事前学習]：合理的配慮の具体的な例について調べておく (120分) [事後学習]：合理的配慮の手順について事例を基に調べてまとめる (120分) 遠隔授業の場合：TEAMSを利用、講義資料等は事前に配布あるいはTEAMSで配信</p>
第6回	<p>知的障がい・肢体不自由・病弱等の概要とその理解 ここでは特別支援教育における知的障がいと肢体不自由、病弱の概要について学びます。知的障がいについては、その原因の多様性と程度の幅について理解します。特に知的障がいの程度とそれぞれに対応するコミュニケーションの問題について詳しく理解します。体不自由については、その原因のみならず障がいによって生じるハンディキャップとそれを補うための環境整備についても学びます。病弱については、難病も含めた障がい種別と対応について理解します。 [事前学習]：知的障がいに対してもつ自分のイメージについてまとめておく (120分) [事後学習]：保育場面における知的障がいへの具体的な対応について障がいの程度も考慮しながら考える (120分) 遠隔授業の場合：TEAMSを利用、講義資料等は事前に配布あるいはTEAMSで配信</p>
第7回	<p>視覚、聴覚・言語障がいの概要とその理解 ここでは視覚障がい、聴覚障がいと言語障がいの概要について学びます。視覚障がいについては、視覚、視野、色覚の障がいについてそれぞれ理解し、また大人と子どもの視覚的特性の相違についても学びます。また視覚障がいの原因が先天性であるか後天性であるかによる相違と盲と弱視の相違について知ります。 聴覚障がいについては、感音性難聴と伝音性難聴のそれぞれの特性について学び、言語障がいについては、構音障がいや流暢性の障がい等様々な場合について学びます。 [事前学習]：言語障がいに対してもつ自分のイメージについてまとめておく (120分) [事後学習]：保育場面における言語障がいへの具体的な対応について考える (120分) 遠隔授業の場合：TEAMSを利用、講義資料等は事前に配布あるいはTEAMSで配信</p>
第8回	<p>発達障がい (AD/HD、LD、自閉症スペクトラム) の概要とその理解 ここでは発達障がい (AD/HD、LD、自閉症スペクトラム) について、その障がい特性の概要を学びます。 まず、発達障がいの診断に関わる歴史的な経緯を知り、脳微細損傷 (MBD) とされた時代から現在の発達障がいにもどのように観点が変化してきたのかを学びます。その事実に基づいて、AD/HD、LD、自閉症スペクトラムそれぞれの障がい特性について、特に「対人関係」「コミュニケーション」「こだわり」「多動」「不注意」「衝動性」等、具体的な例をあげながら言語面や行動面の特徴から学んでいきます。 [事前学習]：カクテルパーティー効果について調べておく (120分) [事後学習]：自閉症スペクトラムへの対応について整理 (120分) 遠隔授業の場合：TEAMSを利用、講義資料等は事前に配布あるいはTEAMSで配信</p>
第9回	<p>特別なニーズを有する子どもの事例研究 ここでは各種障がい等について、VTR視聴による演習、事例研究等を通してアクティブラーニング形式でその対応の在り方を学びます。 てんかんを伴う重い知的障がいの事例については、コミュニケーションを育むという観点から学びます。いわゆる多動については、行動面の顕著な事例を実際に画像で見ながらその特徴を知ります。自閉症スペクトラムについては、知的障がいの中～重度の事例を見ながら、特にこだわりの様子、コミュニケーションと対人関係の課題について考えます。さらに自閉症スペクトラム特有のパニックについては、自傷行為の実際も見ながら学んでいきます。 [事前学習]：自閉症スペクトラムのコミュニケーションの特性についてまとめておく (120分) [事後学習]：自閉症スペクトラムの多動への対応について整理 (120分) 遠隔授業の場合：TEAMSを利用、講義資料等は事前に配布あるいはTEAMSで配信</p>
第10回	<p>障がいに由来しない特別なニーズを有する子どもの概要とその理解 ここでは貧困や外国に繋がる子ども等、障がいに由来しない特別なニーズを有する子どもについて、その評価と特性、対応の在り方についてその概要を学びます。 貧困が子どもに及ぼす影響については、家庭環境を考慮した家族支援の観点も踏まえながらニーズに対する対応の方策と留意点について理解します。外国に繋がる子どもについては、LDの理解に関わる内容も踏まえながら、内言語と外言語のギャップや抽象概念の理解に関する問題なども含めて考えていきます。 [事前学習]：貧困に対してもつ自分のイメージについてまとめておく (120分) [事後学習]：外国に繋がる子どもについて、特にコミュニケーションの観点から具体的な対応について考える (120分) 遠隔授業の場合：TEAMSを利用、講義資料等は事前に配布あるいはTEAMSで配信</p>
第11回	<p>特別なニーズを有する子どものための教育課程 ここでは特別支援教育に特化した教育課程の枠組みとその目的について学びます。 まず、特別支援教育における「個に応じた教育」の重要性を理解します。 次に特別支援学校における障がいの程度に応じたきめ細やかな教育課程について知ります。 特に自立活動に焦点を当て、事例も交えながら具体的な教育方法や内容について学びます。 [事前学習]：自立活動の目的について調べておく (120分) [事後学習]：自立活動についてカテゴリ毎に事例を交えながら具体例を整理 (120分) 遠隔授業の場合：TEAMSを利用、講義資料等は事前に配布あるいはTEAMSで配信</p>
第12回	<p>特別なニーズを有する子どものために多様な学びの場と就学支援 ここでは多様な学びの場と就学支援の実際について学びます。 まず普通学校に設置されている、通常の学級、通級指導教室、特別支援学級から、特別支援学校、あるいは訪問 (院内) 学級に至る、多様な学びの場について学びます。次に保育所 (園) あるいは幼稚園から小学校への就学支援について学びます。それぞれの学びの場についてその特性と目的、対象児について理解し、就学支援の仕組みについても学びます。 [事前学習]：多様な学びの場の種類について調べておく (120分) [事後学習]：就学支援の具体的な流れと留意点について整理し、まとめる (120分) 遠隔授業の場合：TEAMSを利用、講義資料等は事前に配布あるいはTEAMSで配信</p>
第13回	<p>特別なニーズを有する子どもへの個別の教育支援計画と指導計画 ここでは特別なニーズを有する子どもに対する具体的な教育的支援の方策について学びます。 個に応じた対応に不可欠な実態把握に基づく支援計画の重要性についてまず理解し、次に特別支援教育の対象児に対しての作成が義務づけられている、個別の教育支援計画と個別の指導計画の目的と内容について理解します。</p>

	<p>さらに学校現場で作成された、具体的な事例を参考にしながら、その作成方法と作成の留意点についても学びます。</p> <p>[事前学習]：個別の教育支援計画の具体例について調べておく（120分） [事後学習]：個別の教育支援計画作成のために必要な関係諸機関（教育、医療、福祉・保健）についてまとめる（120分） 遠隔授業の場合：TEAMSを利用、講義資料等は事前に配布あるいはTEAMSで配信</p> <p>第14回 特別なニーズを有する子どもの保護者・家族への支援と障がいの受容 ここではいわゆる「障がい受容」について学び、中途障がいのみならず、保護者と家族支援の実際について学びます。 障がい受容の過程については、ショック期から適応期へ至る一連のステージについて、その特性を踏まえながら理解します。 また保護者が我が子の障がいをどのように受け止めるのか？、という観点から、保育士としての保護者への対応のあり方とその留意点について、障がい者手帳取得に関わる問題も交えながら学びます。 さらに保護者のみならず、きょうだい支援、さらには家庭支援の重要性についても併せて学びます。</p> <p>[事前学習]：「家族支援」の概要について調べておく（120分） [事後学習]：保育士として障がいを有する子どもの保護者への対応について、特に留意点に絞って整理（120分） 遠隔授業の場合：TEAMSを利用、講義資料等は事前に配布あるいはTEAMSで配信</p> <p>第15回 まとめと振り返り（アクティブラーニング） これまで学んできたことを基盤として、アクティブラーニング形式でまとめをしながら今後の課題について考えます。 [事前学習]：この講義で最も印象に残った内容についてまとめておく（120分） [事後学習]：「個に応じた教育・保育」について、自分なりの取り組み姿勢について整理（120分） 遠隔授業の場合：TEAMSを利用、講義資料等は事前に配布あるいはTEAMSで配信</p> <p>第16回 定期試験 15回の講義内容を踏まえて、記述式の期末試験を行います。 遠隔授業の場合：TEAMSを利用、TEAMSを用いて講義時間内に試験を行う予定です。</p>
<p>授業における具体的な特色や方法</p>	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p> <p>5) 実践的PBL <input type="checkbox"/></p>
<p>テキスト</p>	<p>「特別なニーズを有する子どもの育ちと学びを支えるために」（スライドデッキ）事前に配布</p>
<p>参考書</p>	<p>特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領—平成29年4月告示 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編(幼稚部・小学部・中学部) 前田泰弘編 2019年 「実践に生かす障害児保育・特別支援教育」 萌文書林 (ISBN 948-4-89347-326-4 C3037)</p>
<p>評価方法</p>	<p>定期試験（60%）、授業中の態度（20%）、授業への参加度（20%） 遠隔授業で行う場合でも、授業時間内にTEAMS経由で試験を行う予定</p>
<p>評価基準</p>	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。（遠隔の場合には講義内で説明） 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) —：出席不足</p>
<p>卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連</p>	<p><input type="checkbox"/> 1. キリスト教精神に基づき、他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための態度を身につける。 <input type="checkbox"/> 2. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律し他者との対話を通して、主体的に保育を实践する態度を追求する。 <input type="checkbox"/> 3. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。 <input type="checkbox"/> 4. 地域を拠点に、国内外の子どもや保育の課題を解決するために貢献できる。 <input type="checkbox"/> 5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
<p>履修上の注意</p>	<p>講義には目的意識を持って、主体的に参加し、講義を通じて自ら思考する態度を身につけること。 演習の場面では積極的にディスカッションに参加すること。 また、講義中は他者への迷惑行為（携帯電話・メール・私語・離席等）を固く禁止する。</p> <p>スライドデッキなど関連する資料は講義開始時あるいはTEAMS経由で配信予定です、講義で使用しますので必ず確認してください。 TEAMS上の資料の格納場所：「障がい児保育の自分のチーム」-「一般」-「ファイル」-「クラスの資料」の下に以下の資料を格納しておきます。 TEAMSにて授業を実施する回は、授業開始時にはコンピュータ・スマートフォンで参加できるよう準備すること 遠隔授業の場合にはチームコードを利用してTEAMSの会議室に入室して下さい</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>授業終了後、あるいは次回授業前に質問を受け付けます。 遠隔授業時には、メールあるいはオンライン面談を行います。 連絡は以下にメールでお願いします (jerrysopart@gmail.com) オフィスアワー 木曜日13:00-14:30</p>
<p>課題に対するフィードバック方法</p>	<p>課題などの詳細は授業内で説明予定です。 遠隔授業の場合にはmailあるいはTEAMSを経由してフィードバックを予定しています。</p>

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	2年次	2単位 (2-0)	選択科目 (幼免・保育士：必修)
担当教員			
喜舎場 勤子			
授業形態：講義 遠隔授業の可能性あり。	ナンバリング：EEM3232101		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 教育課程の意義や編成方法の理解</p> <p>【到達目標】 知識・理解の観点：幼児教育における教育課程や保育の全体的な計画の役割・機能及びカリキュラム評価の基礎的な考え方を理解することができる。 技能の観点：教育課程等の編成方法の理論的知識を活用し、計画を立案することができる。 態度の観点：授業や課題への取り組みを通し、主体的学習者としてのタイム・マネジメント力を身につけることができる。</p>
授業の概要	幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針を基準として編成されている教育課程及び保育の全体的な計画について、その意義や編成の方法を理解する。さらに、幼児教育機関・施設の実情に合わせたカリキュラム・マネジメントを行うことの意義について理解する。幼稚園において教員経験のある者が、その経験を活かし、実際の資料（教育課程や指導計画）を活用し、教育課程や全体的な保育計画について、資料や実例などを通して具体的に解説する。
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、カリキュラムの基礎理論 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。前半は評価方法・課題の詳細など履修上の重要事項について説明する。後半はカリキュラムの定義・意義・社会的役割について解説する。 【事前学習】シラバスに目を通す。テキスト第1章を読み語彙等を確認する。(2時間) 【事後学習】テキスト・配布資料等を精読する。フィードバック・シートを記入し提出する。(2時間)</p> <p>第2回 全体的な計画・教育課程の意義 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。3つの幼児教育施設におけるカリキュラムの性格・位置付け及び編成の目的等について講義する。 【事前学習】テキスト第2章を読み、語彙等を確認する。(2時間) 【事後学習】テキスト・配布資料等を精読する。フィードバック・シートを記入し提出する。(2時間)</p> <p>第3回 全体的な計画・教育課程の変遷 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。幼稚園教育要領・保育所保育指針の改訂(定)の変遷やその社会的背景について講義する。教育課程等が社会において果たしている役割や機能について講義する。 【事前学習】テキスト第3章を読み、語彙等を確認する。(2時間) 【事後学習】テキスト・配布資料等を精読する。フィードバック・シートを記入し提出する。(2時間)</p> <p>第4回 全体的な計画・教育課程の編成 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。関連法令を踏まえたカリキュラム編成手順について講義する。 【事前学習】テキスト第4章を読み、語彙等を確認する。(2時間) 【事後学習】テキスト・配布資料等を精読する。フィードバック・シートを記入し提出する。(2時間)</p> <p>第5回 指導計画の基礎 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。指導計画の必要性や種類・内容について講義する。 【事前学習】テキスト第5章を読み、語彙等を確認する。(2時間) 【事後学習】テキスト・配布資料等を精読する。フィードバック・シートを記入し提出する。(2時間)</p> <p>第6回 年齢別発達のポイント ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。「発達過程」や年齢別発達のポイントについて講義する。 【事前学習】テキスト第6章を読み、語彙等を確認する。(2時間) 【事後学習】テキスト・配布資料等を精読する。フィードバック・シートを記入し提出する。(2時間)</p> <p>第7回 全体的な計画と保育 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。保育所等における全体的計画について講義する。 【事前学習】テキスト第7章を読み、語彙等を確認する。(2時間) 【事後学習】テキスト・配布資料等を精読する。フィードバック・シートを記入し提出する。(2時間)</p> <p>第8回 教育課程と保育 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。幼稚園等および小学校の教育課程について講義する。 【事前学習】テキスト第8章・第13章を読み、語彙等を確認する。(2時間) 【事後学習】テキスト・配布資料等を精読する。フィードバック・シートを記入し提出する。(2時間)</p> <p>第9回 指導計画の意義と種類 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。指導案作成の意義や種類について講義する。 【事前学習】テキスト第9章を読み、語彙等を確認する。課題(教材研究)を完成させ授業時に提出する。(2時間) 【事後学習】テキスト・配布資料等を精読する。フィードバック・シートを記入し提出する。(2時間)</p>

第10回	指導計画の作成 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 指導案作成の手順について講義する。講義を踏まえて指導案を作成する（グループ・ワーク）。 【事前学習】テキスト第9章を読み、語彙等を確認する。（2時間） 【事後学習】テキスト・配布資料等を精読する。フィードバック・シートを記入し提出する。（2時間）
第11回	指導案記入の留意点 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 課題（指導案）を持参し、ピアレビューをする。チェックシートを活用することにより、授業前半の学習を整理し学習した知識の運用力を鍛える。 【事前学習】テキスト第10章を読み、語彙等を確認する。課題を仕上げて出席する。授業後提出する。（2時間） 【事後学習】テキスト・配布資料等を精読する。フィードバック・シートを記入し提出する。（2時間）
第12回	指導計画の実際 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 実際の学生が作成した実習指導計画案を紹介する。学んだ知識を活用し、批判的に指導案を読む力を鍛える。 【事前学習】テキスト第10章を読み、語彙等を確認する。（2時間） 【事後学習】テキスト・配布資料等を精読する。フィードバック・シートを記入し提出する。（2時間）
第13回	保育記録・評価とカリキュラム・マネジメント ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 保育記録の活用や保育評価の視点について講義する。質の向上を目的とした保育過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）の循環やカリキュラム・マネジメントについて講義する。 【事前学習】テキスト第11章を読み、語彙等を確認する。（2時間） 【事後学習】テキスト・配布資料等を精読する。フィードバック・シートを記入し提出する。（2時間）
第14回	保育所及び幼稚園の自己評価 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 保育者や幼児教育施設の自己評価について、その意義や種類について講義する。 【事前学習】テキスト第12章を読み、語彙等を確認する。（2時間） 【事後学習】テキスト・配布資料等を精読する。フィードバック・シートを記入し提出する。（2時間）
第15回	幼稚園幼児指導要録、保育所児童保育要録、認定こども園園児指導要録 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 幼児教育施設における要録の役割や義務付けられた背景などを生活と発達の連続性の観点から講義する。 【事前学習】テキスト第14章を読み、語彙等を確認する。（2時間） 【事後学習】テキスト・配布資料等を精読する。フィードバック・シートを記入し提出する。（2時間）
第16回	定期試験 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/> 2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/> 3) ICTの活用 <input type="checkbox"/> 4) 初年次教育 <input type="checkbox"/> 5) 実践的PBL <input type="checkbox"/>
テキスト	佐藤康富編著 2020年『保育・教育カリキュラム論』大学図書出版 ※必要な資料は適宜配布する。
参考書	文部科学省 2017年 『幼稚園教育要領』 フレーベル館 文部科学省 2018年 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 厚生労働省 2017年 『保育所保育指針』 フレーベル館 厚生労働省 2018年 『保育所保育指針解説』 フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2017年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2018年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館
評価方法	定期試験50%、課題25%（指導案10%・教材研究10%・ピアレビュー5%）、授業後課題15%、授業貢献度10% ※課題の提出状況が著しく悪い場合は単位認定をしない場合もある。
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) —：出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【 <input type="checkbox"/> 】 1. キリスト教精神に基づき、他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための態度を身につける。 【 <input type="checkbox"/> 】 2. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律し他者との対話を通して、主体的に保育を实践する態度を追求する。 【 <input type="checkbox"/> 】 3. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。 【 <input type="checkbox"/> 】 4. 地域を拠点に、国内外の子どもや保育の課題を解決するために貢献できる。 【 <input type="checkbox"/> 】 5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。
履修上の注意	・講義形式の授業だが対話を重視し、可能な限り発言の機会を設ける。主体的・積極的な参加を求める。 ・評価の大半を課題等の提出物が占めるため、遅刻・欠席をしないようにする。 ・提出物は期限厳守とし期限を過ぎたものは受け取らない。 ・遠隔授業の場合はMicrosoft Teamsにて行う。事前に大学メールにて連絡する。
オフィスアワー	喜舎場：毎回、授業の前後に教室で受け付ける

課題に対する フィードバック方 法	提出された課題は、評価後に返却する。
-------------------------	--------------------

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前・後期	2年	2単位(0-2)	選択科目(幼免：必修)
担当教員			
佐久本 邦華			
授業形態：演習 遠隔授業の可能性あり	ナンバリング：EEM3232151		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 保育・教育現場におけるICT活用の実際を知り、ツールを使うことを通してICT活用の可能性について学ぶ。また、子どもたちの学びを深めるためのICT活用についても考える。</p> <p>【到達目標】 ①知識・理解：保育・教育現場におけるICTの活用について学ぶ。また、子どもたちの資質・能力を育むための活用法について理解する。 ②技能：保育者として必要なICT活用の技能を習得する。幼児の発達段階をふまえ、子どもたちの学びを深めるICTを用いた活動を構想し、実践することができる。 ③態度：ICT活用技能を習得するため、積極的に製作活動、課題、発表に取り組む。</p>
授業の概要	<p>ワープロソフトやプレゼンテーションソフトの基本的操作技術を確認する。またデジカメなどの周辺機器を用いて、視覚性に富んだ保育資料を製作する応用力を身につける。一方で保育・教育現場におけるICT活用の実際を知り、その利点と問題点について理解する。最後に、子どもたちの学びを深めるためのICT活用について考える。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、幼稚園教育・保育所保育における「教育方法と技術」とは何か ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 ・講義内容と評価方法(ルーブリック)を示す。 ・保育・教育現場におけるICT活用の実際(ポートフォリオやドキュメンテーション等)について知る。 ・なぜ保育者にICTを活用する能力が求められているのかを理解する。 ・幼稚園教育要領に記されている、幼児期にICTを活用する際に考慮することは何かを確認する。 【事前学習】 Teams掲示のシラバス等を確認し、分からない用語を調べておく。(2時間) 【事後学習】 振り返りレポートの提出。(2時間)</p> <p>第2回 教育技術について(情報機器及び教材の活用) ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 ・教育方法や情報機器を有効に活用しながら教材作成の技術・技能を習得する意識を高める。 ・初等教育現場の各種教育メディア(白板・電子黒板、印刷教材、絵本・紙芝居、視聴覚教材、教材教具、インターネット教材等)の教育効果を理解を高める。 ・近年の進化する情報機器・ICT技術に対する苦手意識を克服できるよう幼児教育のレベルに合わせた教育目標により効果的な技能・技術を習得する意識を高める。 【事前学習】 Teamsで提示された資料を読み、分からない用語を調べておく。(2時間) 【事後学習】 振り返りレポートの提出。(2時間)</p> <p>第3回 大学内のインターネット環境、PC環境、情報教育メディアの整備状況、利用可能なソフト、既存の電子教材データベース、利用技術について ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 ・インターネット環境について学ぶ(UserID、Password、大学のホームページ、web検索) ・PC環境について学ぶ(Windowsのバージョン、装備されたハードウェア環境、ネットワーク環境等) ・パソコンリテラシーと情報倫理を学ぶ(データ保存、著作権について等) 【事前学習】 Teamsで提示された資料を読み、分からない用語を調べておく。(2時間) 【事後学習】 振り返りレポートと授業の課題の提出確認を行う。(2時間)</p> <p>第4回 ICT機器活用：ワープロソフト① 基本的な文書の作成 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 ・Wordソフトを用いた簡単な園だよりを作成することを通して、Wordソフトの基本技術を再確認する。 【事前学習】 Teamsで提示された資料を読み、分からない用語を調べておく。(2時間) 【事後学習】 振り返りレポートと授業の課題の提出確認を行う。(2時間)</p> <p>第5回 ICT機器活用：ワープロソフト② 視覚性に富んだ文書の作成 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 ・ワードアートやスマートアート機能などを用い、やや複雑なレイアウトの文書を作成する。 ・情報倫理を確認しながら、フリー素材集の活用方法について学び、視覚性に富んだ文書を作成する。 【事前学習】 Teamsで提示された資料を読み、分からない用語を調べておく。(2時間) 【事後学習】 振り返りレポートと授業の課題の提出確認を行う。(2時間)</p> <p>第6回 ICT機器活用：ワープロソフト③ 様々なレイアウトの文書の作成 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 ・園だより、行事のおたより、カードなど、園で実際に使用される様々なサイズやレイアウトの文書を作成し、応用力を身につける。 【事前学習】 Teamsで提示された資料を読み、分からない用語を調べておく。(2時間) 【事後学習】 振り返りレポートと授業の課題の提出確認を行う。(2時間)</p> <p>第7回 ICT機器活用：プレゼンテーションソフト① 基本的な機能の確認 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 ・基本的なプレゼンテーションの機能を確認しながら課題に取り組む。 ・ページの切替え、背景色の変更、文字の挿入、イラストの挿入、アニメーションの挿入など。</p>

第8回	<p>【事前学習】 Teamsで提示された資料を読み、分からない用語を調べておく。(2時間)</p> <p>【事後学習】 振り返りレポートと授業の課題の提出確認を行う。(2時間)</p> <p>ICT機器活用：プレゼンテーションソフト② 応用機能を学ぶ ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの機能を確認しながら課題に取り組む。 ・ページの切替え効果、背景画像の挿入、表やグラフの挿入など。
第9回	<p>【事前学習】 Teamsで提示された資料を読み、分からない用語を調べておく。(2時間)</p> <p>【事後学習】 振り返りレポートと授業の課題の提出確認を行う。(2時間)</p> <p>ICT機器活用：オリジナルプレゼン資料①素材作成 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「子どもと作る簡単おもちゃ」のテーマで、オリジナルプレゼンテーション資料を作る。 ・内容を決め、作業手順や工程を撮影し、画像素材を揃える。
第10回	<p>【事前学習】 Teamsで提示された資料を読み、分からない用語を調べておく。(2時間)</p> <p>【事後学習】 講義を通して学んだこと、気づいたことについてまとめる。(2時間)</p> <p>ICT機器活用：オリジナルプレゼン資料②資料作成 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き「子どもと作る簡単おもちゃ」のテーマで、オリジナルプレゼンテーション資料を仕上げる。 ・デジカメや各自携帯電話で撮影した写真をプレゼンテーションに挿入し、アニメーション効果等をつけ、伝わりやすいプレゼンテーション資料を作成する。
第11回	<p>【事前学習】 Teamsで提示された資料を読み、分からない用語を調べておく。(2時間)</p> <p>【事後学習】 講義を通して学んだこと、気づいたことについてまとめる。(2時間)</p> <p>ICT機器活用：オリジナルプレゼン資料③鑑賞 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終発表を行い、お互いに鑑賞会をもつ。 ・それぞれの学生の作品や発表の良い点、改善点についてまとめる。
第12回	<p>【事前学習】 Teamsで提示された資料を読み、分からない用語を調べておく。(2時間)</p> <p>【事後学習】 講義を通して学んだこと、気づいたことについてまとめる。(2時間)</p> <p>保育・教育現場における「教育方法と技術」とは何か ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。</p> <p>ポータルフォリオやドキュメンテーション等のICTを活用した保育記録は、保護者と保育者の情報共有の有効なツールである同時に、保育者の幼児理解を深める手助けとなることについて理解を深める。また、子どもたちの学びを深めるためのICT活用について、集団でICTの機器を使う活動について考える。</p>
第13回	<p>【事前学習】 Teamsで提示された資料を読み、分からない用語を調べておく。(2時間)</p> <p>【事後学習】 講義を通して学んだこと、気づいたことについてまとめる。(2時間)</p> <p>ドキュメンテーション作成①作成 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。</p> <p>園で作成されるドキュメンテーションにはどのようなものがあるのかを資料を通して知る。また、グループでテーマを決め、ICT機器を活用し、オリジナルドキュメンテーションを作成してみる。</p>
第14回	<p>【事前学習】 Teamsで提示された資料を読み、分からない用語を調べておく。(2時間)</p> <p>【事後学習】 講義を通して学んだこと、気づいたことについてまとめる。(2時間)</p> <p>ドキュメンテーション作成②発表 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。</p> <p>各グループで決めたテーマをもとに、ICT機器を活用し、オリジナルドキュメンテーションを作成し、発表する。各グループの発表からの気づき、良かった点、改善点をまとめる。</p>
第15回	<p>【事前学習】 Teamsで提示された資料を読み、分からない用語を調べておく。(2時間)</p> <p>【事後学習】 講義を通して学んだこと、気づいたことについてまとめる。(2時間)</p> <p>保育教育現場におけるICT活用について まとめ ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。</p> <p>14回の講義内容を振り返る。ポータルフォリオやドキュメンテーション等のICTを活用した保育記録が、保護者と保育者の情報共有の有効なツールである同時に、保育者の幼児理解を深める手助けとなることを再確認する。また、子どもたちの学びを深めるためのICT活用について、気づいたことや学んだことをまとめる。</p>
第16回	<p>【事前学習】 Teamsで提示された資料を読み、分からない用語を調べておく。(2時間)</p> <p>【事後学習】 最終レポートの提出。(2時間)</p> <p>なし</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p> <p>5) 実践的PBL <input type="checkbox"/></p>
テキスト	<p>文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 2017年</p> <p>文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 2018年</p>
参考書	<p>内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 2017年</p> <p>内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 2018年</p> <p>厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 2017年</p> <p>厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館 2018年</p> <p>保育所保育指針解説(平成30年2月 厚生労働省)</p> <p>その他適宜紹介</p>
評価方法	<p>課題および提出状況(60%)</p> <p>振り返り小レポート・最終レポート(40%)</p> <p>※ 遠隔授業の場合も同様に行う。</p>
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。</p> <p>成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀(A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優(B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良(C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p>

	<p>可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) - : 出席不足</p> <p>※ 遠隔授業の場合も同様に行う。</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【 】 1. キリスト教精神に基づき、他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための態度を身につける。 【○】 2. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律し他者との対話を通して、主体的に保育を実践する態度を追求する。 【○】 3. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。 【 】 4. 地域を拠点に、国内外の子どもや保育の課題を解決するために貢献できる。 【○】 5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
履修上の注意	<p>実習用パソコン上では提出課題ファイルが保存できませんので各自のUSBメモリーを持参してください。</p> <p>※ 遠隔授業の場合も同様に提出課題。</p>
オフィスアワー	<p>佐久本：毎週月曜日3限目 佐久本研究室（北研2-1） ※遠隔授業期間においては、メール（sakumoto.k@oc.jc.ac.jp）、Microsoft Teams等を利用し相談を行う</p>
課題に対するフィードバック方法	<p>Microsoft Teams等を用いてフィードバックを行う。</p>

講義科目名称： 幼児理解と教育相談

授業コード：

英文科目名称： Infant Understanding and Educational Counseling

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	2年次	2単位 (0-2)	選択科目 (幼免：必修)
担当教員			
大城 りえ			
授業形態：演習 遠隔授業の可能性あり	ナンバリング：EEM3232191		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 幼児理解と教育相談の理論及び方法</p> <p>【到達目標】</p> <p>知識・理解の観点：幼児理解についての知識を身につけ、子どもを理解する方法を理解することができる。また、教育相談の意義を理解し、カウンセリングに関する基礎的知識を理解する。</p> <p>技能の観点：幼児理解や教育相談の事例検討やグループ討議を通して、保育者として具体的な関わりや支援方法を考えることができる。</p> <p>態度の観点：子どもや保護者に寄り添う態度を養い、具体的な関わり方や支援方法を考えられるようになるため、事例検討やグループ討議に積極的に取り組む。</p>
授業の概要	<p>①幼児理解のための発達理論と子どもを理解する方法（観察と記録）について学ぶ。</p> <p>②教育相談の意義、カウンセリングに関する基礎的知識（受容・傾聴・共感的理解）を理解し、子どもや保護者への態度を身につける。</p> <p>③幼児理解と教育相談の理論を踏まえ、個と集団のかかわり、いじめ、不登園、虐待等について、事例検討やグループ討議を通して具体的な関わりや支援方法について考察する。</p> <p>④職員間の連携・協働や地域の関係機関との連携について理解する。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、幼児理解と教育相談を学ぶ意義について ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する 幼児理解と教育相談を学ぶ意義を理解する。 【事前学習】 教育相談について調べる。(2時間) 【事後学習】 幼児理解と教育相談を学ぶ意義について、まとめる。(2時間)</p> <p>第2回 子ども理解と発達理論について ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する 子どもを理解するための発達理論を理解する。 【事前学習】 「発達心理学」で学んだ感情・認知・自己の発達を振り返り、ノートにまとめる。(2時間) 【事後学習】 発達理論をまとめる。(2時間)</p> <p>第3回 観察・記録の方法と子ども理解の視点 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する 子ども理解のための観察の重要性と記録の方法を理解する。 【事前学習】 配布資料（当事者記録・第三者記録）を読み、ポイントをまとめる。(2時間) 【事後学習】 子ども理解の方法（観察と記録）についてまとめる。(2時間)</p> <p>第4回 気になる子と友達の関わり方（個と集団をとらえる視点）について ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する 気になる子と友達への関わり方を、個と集団をとらえる視点を通して理解する。 【事前学習】 配布資料を読み、子ども同士の関わり方を考える。(2時間) 【事後学習】 個と集団をとらえる視点についてまとめる。(2時間)</p> <p>第5回 カウンセリングに関する理論（来談者中心療法・精神分析・行動理論）について ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する 来談者中心療法・精神分析・行動理論を理解する。 【事前学習】 来談者中心療法・精神分析・行動理論について調べる。(2時間) 【事後学習】 カウンセリングに関する理論についてまとめる。(2時間)</p> <p>第6回 カウンセリングの基本（受容・傾聴・共感的理解）について ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する カウンセリングの基本（受容・傾聴・共感的理解）を理解する。 【事前学習】 第5回のカウンセリング理論について振り返る。(2時間) 【事後学習】 カウンセリングの基本についてまとめる。(2時間)</p> <p>第7回 カウンセリングの技法（非言語的コミュニケーション技法・傾聴実習）について ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する カウンセリングの技法（非言語的コミュニケーション技法・傾聴実習）を理解する（ロールプレイ）。 【事前学習】 第6回の授業内容を振り返る。(2時間) 【事後学習】 カウンセリングの技法について、ロールプレイで感じたことをまとめる。(2時間)</p> <p>第8回 教育相談の進め方（目標の立て方・記録・職員間連携など）について ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する 教育相談の進め方（目標の立て方・記録・職員間連携など）について学ぶ。 【事前学習】 教育相談を行う際の目標の立て方や職員間連携について考える。(2時間) 【事後学習】 教育相談の進め方のポイントをまとめる。(2時間)</p> <p>第9回 事例検討：発達の遅れ・発達障がいのある子への支援について ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する 事例を通して、発達の遅れ・発達障がいのある子への支援方法を学ぶ（グループ討議）。 【事前学習】 事例（配布資料）を読み、支援方法について考える。(2時間) 【事後学習】 発達の遅れがある子への支援方法について、ポイントをまとめる。(2時間)</p> <p>第10回 事例検討：問題行動への対応について ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する 事例を通して、子どもの問題行動への支援方法を学ぶ（グループ討議）。 【事前学習】 事例（配布資料）を読み、支援方法について考える。(2時間)</p>

	<p>【事後学習】問題行動への対応について、ポイントをまとめる。(2時間)</p> <p>第11回 事例検討：登園しづりへの対応について ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する事例を通して、登園しづりへの対応を学ぶ(グループ討議)。 【事前学習】事例(配布資料)を読み、支援方法について考える。(2時間) 【事後学習】支援方法について、ポイントをまとめる。(2時間)</p> <p>第12回 事例検討：いじめへの対応について ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する事例を通して、いじめへの対応を学ぶ(グループ討議)。 【事前学習】事例(配布資料)を読み、支援方法について考える。(2時間) 【事後学習】いじめへの対応について、ポイントをまとめる。(2時間)</p> <p>第13回 事例検討：虐待への対応について ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する事例を通して、虐待への対応を学ぶ(グループ討議)。 【事前学習】事例(配布資料)を読み、支援方法について考える。(2時間) 【事後学習】虐待への対応について、ポイントをまとめる。(2時間)</p> <p>第14回 事例検討：気になる保護者への対応について ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する事例を通して、気になる保護者への対応を学ぶ(グループ討議)。 【事前学習】事例(配布資料)を読み、支援方法について考える。(2時間) 【事後学習】気になる保護者への対応について、ポイントをまとめる。(2時間)</p> <p>第15回 家庭や専門機関との連携について ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する家庭や専門機関との連携・協働について理解する。 【事前学習】家庭や専門機関との連携・協働について、これまでの事例から振り返る。(2時間) 【事後学習】家庭や専門機関との連携・協働のポイントをまとめる。(2時間)</p> <p>第16回 なし</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p> <p>5) 実践的PBL <input type="checkbox"/></p>
テキスト	<p>文部科学省 2017年 『幼稚園教育要領』 フレーベル館 文部科学省 2018年 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2017年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2018年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館 その他、事例等配布資料は担当者が準備します。</p>
参考書	<p>大野精一(編) 2017年 『教師・保育者のための教育相談』 萌文書林 青木久子・間藤侑・河邊貴子 2015年 『子ども理解とカウンセリングマインド』 萌文書林 小林育子 2017年 『演習 保育相談支援』 萌文書林 大竹直子 2014年 『やさしく学べる 保育カウンセリング』 金子書房</p>
評価方法	小テスト40%、事例検討への参加度35%、授業内レポート15%、受講態度10%
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 ※遠隔授業の場合、評価方法を変更するため、ルーブリックにも変更あり。詳細は講義内で説明。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) - : 出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【 <input type="checkbox"/> 】 1. キリスト教精神に基づき、他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための態度を身につける。 【 <input type="checkbox"/> 】 2. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律し他者との対話を通して、主体的に保育を実践する態度を追求する。 【 <input type="checkbox"/> 】 3. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。 【 <input type="checkbox"/> 】 4. 地域を拠点に、国内外の子どもや保育の課題を解決するために貢献できる。 【 <input type="checkbox"/> 】 5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士(保育)の学位を授与する。</p>
履修上の注意	<p>事例検討では、事前に事例を読み、支援方法について考え授業に臨むこと。 ※遠隔授業の場合、MicrosoftTeams等に提示する資料や課題を必ず確認すること。同時双方向型授業を実施する回は、授業開始時にはスマートフォンやPCで参加できるよう準備すること。</p>
オフィスアワー	<p>毎週*曜日 *限目 西研3-7大城研究室 ※遠隔授業実施期間は、Microsoft Teams・メール等で対応します。(rie@ocjc.ac.jp)</p>
課題に対するフィードバック方法	<p>小テストおよび授業内レポートは、授業内で返却します。 ※遠隔授業の場合、Microsoft Teamsを使用します。</p>

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	2年次	1単位 (0-2)	選択科目 (幼免：必修)
担当教員			
山盛 淳子・佐久本 邦華・大城 りえ			
授業形態：演習 遠隔授業の可能性あり。			
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 教育実習に関する内容理解と実践</p> <p>【到達目標】 知識・理解の観点：幼稚園教育と幼稚園教諭の役割、保育内容・方法、幼児理解等について理解する。 技能の観点：子どもが主体的に遊び、体験を通した学びを育む保育について理解し、構想する方法を身に付ける。特に、教師の援助や環境構成を具体的に記述した実習記録や指導案の作成ができる。 態度の観点：教師としての自覚を持ち、自己管理に努める。</p>
授業の概要	事前指導では、幼稚園教育の役割や機能、幼児理解、教育内容、教育環境、幼稚園教諭の役割と職業倫理等について具体的に学び、幼稚園教育の基本を理解する。事後指導では、教育実習の省察と改善点をまとめて、自己課題及び自己の教師像を明確にする。事前事後の実習指導をとおして、幼稚園教育を理解する態度や子どもへ関わる態度を学習する。本講義では、幼稚園及びこども園での実務経験のある担当教員が、実務経験を活かして、教育実習にあたって必要な態度や心構え・教育実習後の省察について、具体的な事例を踏まえて講義する。
授業計画	<p>第1回 講義概要及び評価基準説明、教育実習の意義：実習の概要 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 教育実習の評価基準を知り、教育実習の意義・目的・概要を理解する。 【事前学習】「2022年度版 実習の手引きー保育所・施設・幼稚園ー」の教育実習に関する箇所を読む。(30分) 【事後学習】講義で学んだ箇所の要点を整理する。振り返りコメントを書く。(30分)</p> <p>第2回 実習園の理解(実習園訪問・見学・参観) ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 実習の前後に必要な諸手続きの必要性を知り、園訪問・見学・参観時のマナーを理解する。 【事前学習】実習園について、ホームページ等を調べる。(30分) 【事後学習】「2022年度版 実習の手引きー保育所・施設・幼稚園ー」を確認し書類等を作成する。振り返りコメントを書く。(30分)</p> <p>第3回 教育内容及び教育方法の理解 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 観察実習・参加実習について理解し、実習記録について学ぶ。 【事前学習】講義資料を見返し、教育実習の流れについて再度確認する。(30分) 【事後学習】講義内で作成した実習記録を仕上げて提出する。振り返りコメントを書く。(30分)</p> <p>第4回 模擬保育の計画と指導案作成 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 部分実習・責任実習について理解し、指導案作成について学ぶ。 【事前学習】部分実習指導案作成に向けて、遊びの資料等を調べる。(30分) 【事後学習】部分実習指導案を作成し、提出する。振り返りコメントを書く。(30分)</p> <p>第5回 模擬保育の実践と省察、評価 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 部分実習指導案をもとに模擬保育を行い、実践内容についてグループ協議を行う。 【事前学習】模擬保育に向けて、教材等を準備し練習する。(30分) 【事後学習】部分実習指導案の反省・評価を記入し、提出する。振り返りコメントを書く。(30分)</p> <p>第6回 特別講義 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 教育実習についての講話を聞き、教育実習に臨むにあたって準備することや心構えについて学ぶ。 【事前学習】幼稚園教育要領を読み、幼児教育の基本について再確認する。(30分) 【事後学習】特別講義のレポートを作成し、提出する。振り返りコメントを書く。(30分)</p> <p>第7回 教育実習の総括 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 教育実習を通して自己を評価し、自己課題について考える。 【事前学習】教育実習を総括し、反省点と改善点をまとめ、自己評価する。(30分) 【事後学習】教育実習を総括した課題を提出する。振り返りコメントを書く。(30分)</p> <p>第8回 教育実習評価開示及び個別面談 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 教育実習評価について説明を受け、教育実習の振り返りと今後の課題を明確にする。 【事前学習】実習での学び及び自己課題を整理する。(30分) 【事後学習】今後の学びを具体化する。振り返りコメントを書く。(30分)</p>

授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 【○】 2) 情報リテラシーに関する科目 【○】 3) ICTの活用 【○】 4) 初年次教育 【○】 5) 実践的PBL 【○】
テキスト	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 2017年 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 2018年 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 2017年 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 2018年 沖縄キリスト教短期大学 2022年 『2022年度版 実習の手引きー保育所・施設・幼稚園ー』 その他、必要な資料を配付する。
参考書	必要に応じて紹介する。
評価方法	保育記録（10%）、部分実習指導案作成（10%）、部分実習指導案発表（10%）、振り返りコメント・課題（50%）、その他提出物（20%）で総合的に評価する。
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) — ：出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【○】 1. キリスト教精神に基づき、他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための態度を身につける。 【○】 2. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律し他者との対話を通して、主体的に保育を実践する態度を追求する。 【○】 3. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。 【○】 4. 地域を拠点に、国内外の子どもや保育の課題を解決するために貢献できる。 【○】 5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。
履修上の注意	課題等の提出期日は、厳守すること。 2021年度Student Handbookに明記されている実習の共通事項をしっかりと守ること。 教育実習に関するオリエンテーションや反省会等は、すべて出席すること。 事後学習（振り返り）のコメントをMicrosoft Teamsから提出すること。（200字程度） ※遠隔授業の場合、Microsoft Teams等で提示する資料や課題を必ず確認すること。Microsoft Teamsにて授業を実施する回は、授業開始時間にはスマートフォンやPCで参加できるよう準備すること。
オフィスアワー	毎週*曜日*限目 平中研究室（西研2-8） 毎週*曜日*限目 佐久本研究室（北研2-1） 毎週*曜日*限目 大城研究室（西研3-7）
課題に対するフィードバック方法	課題は、評価後に返却する。

講義科目名称： 教育実習

授業コード： 3155A

英文科目名称： Pract. Teaching in Kindergarten

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	2年	5単位	選択科目 (幼免：必修)
担当教員			
山盛 淳子			
授業形態：実習 遠隔授業の可能性あり。	ナンバリング：EEP3242121		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 子ども理解及び教育実践力の育成</p> <p>【到達目標】 知識・理解の観点：実習園の教育目標や地域の特性を踏まえ、幼児期の特性に応じた環境を通して行う保育について、実習を通して理解することができる。 技能の観点：子どもが環境と関わる姿を見守り、適切な援助・配慮を行うことができる。 態度の観点：教育者としての愛情と使命感をもち、責任を自覚したうえで意欲的に実習に参加できる。</p>
授業の概要	将来、実践の場で柔軟に対応できるような実践的指導力の育成を目指し教育実習を行う。大学で学んだ理論を基盤として、幼稚園教諭としての職務を理解し、幼稚園での幼児理解を深め、教育実践の基礎的な能力と態度を身につける。
授業計画	<p>教育実習 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。</p> <p>①観察実習 ②参加/部分実習 ③部分/責任実習</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p> <p>5) 実践的PBL <input type="checkbox"/></p>
テキスト	<p>文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 2017年 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 2018年 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 2017年 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 2018年</p> <p>その他必要な資料は担当者が準備する。</p>
参考書	沖縄キリスト教短期大学『2021年度版 実習の手引きー保育所・施設・幼稚園ー』
評価方法	実習園からの評価60%，実習担当教員による評価（実習日誌・実習レポート）40%
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) —：出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【 】 1. キリスト教精神に基づき、他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための態度を身につける。 【○】 2. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律し他者との対話を通して、主体的に保育を実践する態度を追求する。 【○】 3. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。 【 】 4. 地域を拠点に、国内外の子どもや保育の課題を解決するために貢献できる。 【○】 5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
履修上の注意	心身ともに健康であること。学習態度や出席状況が良好であること。提出物は、期限内に提出していること。実習指導を履修している者。教育実習の意味を理解し、学ぶ目的をもって積極的に実習に参加すること。
オフィスアワー	毎週*曜日*限目 平中研究室（西研2-8）
課題に対するフィードバック方法	課題は、評価後に返却します。

講義科目名称： 保育・教職実践演習（幼稚園）

授業コード：

英文科目名称： Childcare Practice Seminar (Kindergarten)

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	2年	2単位(0-2)	選択科目（幼免・保育士：必修）
担当教員			
平中 尚子・大城 りえ・糸洲 理子			
授業形態：演習 遠隔授業の可能性あり。	ナンバリング：EEI3252301		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 保育者としての実践力の形成</p> <p>【到達目標】 知識・理解の観点：既習の講義、演習、実習を通して得た知識技能を統合し、幼児教育・保育を理解することができる。 技能の観点：保育者としての資質・能力を形成し、幼児教育・保育に必要な知識及び技能を基に適切な援助を行うことができる。 態度の観点：自己の課題を認識し、幼児教育・保育の専門職としての自覚を持つことができる。</p>
授業の概要	<p>これまでの講義、演習、実習を通して得た知識技能を統合し、実践力のある保育者としての資質・能力を形成することを目的とする。 保育者として必要な「使命感・責任感・教育的愛情」「社会性や対人関係能力」「幼児理解や学級経営」「保育内容の指導力」などを、演習、ロールプレイ等を通して具体的に学んでいく。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、これまでの学習の振り返り ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 授業の始めに、講義概要について説明する。 保育者としての使命感、責任感、教育的愛情、社会性や対人関係能力について、グループで検討し各自でまとめる。 これまでの学習や教育実習を振り返り、知識及び技能等の課題を明確にする。 【事前学習】教育実習を振り返り、自己の課題を明確にしておくこと。(2時間) 【事後学習】保育者の使命感、責任感、教育的愛情、社会性や対人関係能力についてまとめる。(2時間)</p> <p>第2回 保育者の資質・能力 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 自己の課題を認識し、その解決に向けて、自己研鑽に励むなどの、常に学び続ける姿勢について理解する。 【事前学習】保育者の資質・能力について、事前に資料や文献などから、何を学びたいのかを明確にしておくこと。(2時間) 【事後学習】保育者の資質・能力について、授業で学んだ要点を整理する。(2時間)</p> <p>第3回 保育者の使命感・責任感・教育的愛情 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 保育者の職務に必要な使命感や責任感、教育的愛情について理解する。 【事前学習】テキストpp.124～132を読み、保育者の職務内容、役割について事前にまとめる。(2時間) 【事後学習】保育者の使命感・責任感・教育的愛情について、授業で学んだ要点を整理する。(2時間)</p> <p>第4回 保護者及び地域との協働 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 保育を実践する際に必要となる、保護者や地域、関係機関との連携、協働について理解する。 【事前学習】テキストpp.90～95を読み、他者との協働とはどういうことか事前にまとめる。(2時間) 【事後学習】保護者及び地域との協働について、授業で学んだ要点を整理する。(2時間)</p> <p>第5回 幼児理解とカウンセリングマインド（ロールプレイ） ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 保育実践の中の「幼児理解」と「カウンセリングマインド」について理解する。 【事前学習】テキストpp.20～25を読み、「幼児理解」の方法についてまとめる。(2時間) 【事後学習】授業で学んだカウンセリングマインドの要点についてまとめる。(2時間)</p> <p>第6回 支援の必要な子への対応（事例検討） ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 支援の必要な子について理解し、一人ひとりを尊重した関わり方について理解する。 【事前学習】テキストpp.32～36を読み、支援の必要な子を理解する要点をまとめる。(2時間) 【事後学習】支援の必要な子への関わり方の要点についてまとめる。(2時間)</p> <p>第7回 保育のプロセスと指導計画 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 教育実習で実践した指導案を見直し、幼児の実態を把握して指導計画を立案する重要性を理解する。 【事前学習】幼稚園教育実習で使用した責任実習の指導案について見直しておく。(2時間) 【事後学習】教育実習の指導案について、反省・評価をまとめる。(2時間)</p> <p>第8回 幼児理解に基づいた学級経営：協同的な学びへ ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 幼児理解に基づいた学級経営について理解し、幼児の協同的な学びへ向かう姿について理解する。 【事前学習】テキストpp.64～65を読み、幼児理解に基づいた学級経営について学びたいことを明確にする。(2時間) 【事後学習】幼児理解に基づいた学級経営と協同的な学びについて、授業で学んだ要点を整理する。(2時間)</p> <p>第9回 保幼こ小の接続について ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 保幼こ小の接続について理解する。</p>

	<p>【事前学習】テキストpp. 100～107を読み、保幼小の接続について学びたいことを明確にする(2時間)</p> <p>【事後学習】保幼小の接続について、授業で学んだ要点を整理する。(2時間)</p> <p>事例研究①：事例検討 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 自己の課題とする特定の教育テーマで事例を検討する。 【事前学習】自己の課題から教育テーマを精選し、事例研究に必要な内容を明確にしておくこと。(2時間)</p> <p>【事後学習】自己の課題から教育テーマを定め、事例研究発表に必要な資料を作成すること。(2時間)</p> <p>事例研究②：資料作成 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 自己の課題とする特定の教育テーマで事例を検討し、資料を作成する。 【事前学習】自己の課題から教育テーマを精選し、事例研究に必要な内容を明確にしておくこと。(2時間)</p> <p>【事後学習】自己の課題から教育テーマを定め、事例研究発表に必要な資料を作成すること。(2時間)</p> <p>事例研究発表及び討議 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 研究した事例を発表し、グループで討議、意見交換を行う。 【事前学習】事例研究発表に必要な資料を作成、準備しておくこと。(2時間)</p> <p>【事後学習】発表した事例研究について、討議、意見交換で得た内容をまとめること。(2時間)</p> <p>事例研究発表及び討議 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 研究した事例を発表し、グループで討議、意見交換を行う。 【事前学習】事例研究発表に必要な資料を作成、準備しておくこと。(2時間)</p> <p>【事後学習】発表した事例研究について、討議、意見交換で得た内容をまとめること。(2時間)</p> <p>事例研究発表及び討議 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 研究した事例を発表し、グループで討議、意見交換を行う。 【事前学習】事例研究発表に必要な資料を作成、準備しておくこと。(2時間)</p> <p>【事後学習】発表した事例研究について、討議、意見交換で得た内容をまとめること。(2時間)</p> <p>自己課題の明確化 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。 2年間の学習をとおして、自己の保育者としての資質・能力等について振り返る。 【事前学習】これまでの講義内容を振り返り、「保育者の資質・能力」と「保育者の使命感・責任感・教育的愛情」についてまとめておくこと。(2時間)</p> <p>【事後学習】保育者の資質能力と保育者の使命感・責任感・教育的愛情について、自己を振り返り、自己課題を明らかにする。(2時間)</p> <p>第16回 なし</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p> <p>5) 実践的PBL <input type="checkbox"/></p>
テキスト	<p>「改訂版 保育教職実践演習 これまでの学びと保育者への歩み—幼稚園 保育所編」小櫃智子・矢藤誠慈郎(編)わかば社 2018年</p> <p>文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 2017年</p> <p>文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 2018年</p> <p>内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 2017年</p> <p>内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 2018年</p> <p>厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 2017年</p> <p>厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館 2018年</p>
参考書	その他、必要な資料は適宜配布する。
評価方法	教員評価(40%)、到達目標(20%)、事例研究(30%)、振り返りレポート(10%)
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。</p> <p>成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀(A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優(B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良(C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可(D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可(F) 60点未満：到達目標を達成していない</p> <p>欠(K) —：出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【 <input type="checkbox"/> 】 1. キリスト教精神に基づき、他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための態度を身につける。</p> <p>【 <input type="checkbox"/> 】 2. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律し他者との対話を通して、主体的に保育を实践する態度を追求する。</p> <p>【 <input type="checkbox"/> 】 3. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。</p> <p>【 <input type="checkbox"/> 】 4. 地域を拠点に、国内外の子どもや保育の課題を解決するために貢献できる。</p> <p>【 <input type="checkbox"/> 】 5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士(保育)の学位を授与する。</p>
履修上の注意	※課題の提出期日は厳守すること。
オフィスアワー	<p>平中：毎週*曜日*限目 平中研究室(西研2-8)</p> <p>大城：毎週*曜日*限目 大城研究室(西研3-7)</p> <p>糸洲：毎週*曜日*限目 糸洲研究室(西研3-8)</p>
課題に対するフィードバック方法	<p>平中：課題は、評価後に各自のメールアドレスへ返却する</p> <p>大城：課題は、評価後に各自のメールアドレスへ返却する</p> <p>糸洲：課題は、評価後に各自のメールアドレスへ返却する</p>